

ボッコーニ大学 2015年度交換留学成果報告書

一橋大学国際公共政策大学院

1. 初めに

私は、2015年8月27日～2016年1月5日までの間、ミラノのボッコーニ大学に留学させていただいた。留学の目的は二つである。一つ目は私が選んだ修士の研究課題を完成するためのソーシャルネットワーク分析の手法を学ぶことである。二つ目は現地の学生や先生との交流を通じ、ヨーロッパのNGO団体やEU組織がヨーロッパの人々にどのように影響しているのかを知りたいことである。私はこの二つの目的を持ってミラノに出発した。

2. 学習生活

私は三つの科目を受けた。Business and Politics、Social Movement and Competitive Strategy of CompaniesとSocial Network and Web Analyticsだった。この中に一番勉強になったのはSocial Network and Web Analyticsだと思う。なぜなら、この授業で、私の研究にとって最も重要なソーシャルネットワーク分析方法を学んだからだ。私の修士研究課題はツイッターに基づいた国際NGOのネットワーク分析である。研究内容はツイッターを使っている国際NGOのフォロワーやフォロワーなどのデータを収集し、ソーシャルネットワーク分析方法で国際NGOのネットワークの特徴を分析することだ。授業を受けるだけでなく、先生のオフィスアワーにも先生に伺って指導を受けた。この授業で私はデジタルマーケティングという新しい業界を了解し、将来もこの業界に踏み込みたいと思った。この授業は私の将来のキャリアにも役に立てると思う。

ボッコーニで一番大変だったのはSocial Movement and Competitive Strategy of Company授業のグループワークだった。グループメンバーの間にぶつかったこともあるけれども、皆がぶつかりながら協力していく過程は最も充実した時間だった。この経験で私はグループメンバーからパワーポイントの作り方を勉強しただけではなく、グループメンバーの考え方からもいろいろ面白いことを吸収した。

ボッコーニ大学に入学してから、一番印象に残ったのは向こうの大学生たちの一生懸命勉強していた姿だ。彼らの姿を思うと、私も頑張らなければならないと感じた。

3. 学業以外

今回の留学で最も実感したのはヨーロッパ人がどこの国で生活するのが自分で選べられる自由だ。知り合った学生はボッコーニを卒業してからスペインやオランダやドイツなどで就活した。友たちも「私たちは国境ということもうだいぶ忘れたよ」と言った。このような自由がEUの公民ではない私にとっては想像しづらかったが、これは本当にEUのおかげだと思った。それに授業中のディスカッションを通じて、ヨーロッパの学生が自分の国とEUの政治、経済などに関心を持っている上、自分の考えもあると実感した。そして、ロビーフォームの経営者とマイクロソフトの反トラスト訴訟案の担当者のスピーチで、EU組織がビジネスへの具体的な影響も紹介してくれた。これまでEUに関するイメージはとても抽象だったが今回の留学機会ですぐEUのことを具体的に了解した。

イタリア語を喋れない原因で、私は一度だけ、ホームレスに服と食べ物を贈ってあげる活動に参加した。しかしボッコーニの学生はNGO団体に参加するのは珍しくない。学校もNGO団体の活動を支えている。また、スーパーで環境保護団体のボランティアとあったこともある。ボランティア達の中に大人だけではなく、小学生もいた。日常生活にNGOの活動を体験したことが少なかったが、Social Movement and Competitive Strategy of Companiesという授業でいろいろなNGO団体のことを知った。ヨーロッパとアメリカの一般市民はNGOを通じて企業や政府と戦い、自分の権利を主張することがよくあることが分かった。大企業にとって、NGO団体が恐ろしい脅威になることも可能であるため、NGO団体に対する戦略は大手企業のビジネス戦略の中に不可欠な存在であることも分かった。

4. 終わりに

ボッコーニ大学はとても国際的で、先学期各国から来た交換留学生在が500人ぐら

いいた。このようなグローバルな環境でいろいろな国の留学生と出会って、交流できたのは私にとって非常に貴重な経験だ。また、交換留学を通じ、私は勇気と自信を持って知らない世界に飛び込むことができるようになった。